

第22回 夏休み自然観察記録コンクール

- ◇募 集 2015年7月31日(金)～9月18日(金)
- ◇応募作品数 道内の小学校18校から86点(1年15点、2年27点、3年11点、4年9点、5年17点、6年7点)
- ◇入 選 入賞9点、佳作17点、学校賞2校
- ◇審査委員 横山 武彦(審査委員長、北海道自然保護協会常務理事)
 在田 一則(同会長) 佐々木克之(同副会長)
 福地 郁子(同常務理事) 佐藤 謙(同理事)
 古林 英一(同理事) 矢部 和夫(同理事)
 山崎 薫(同理事)
- 堀 繁久(北海道博物館学芸主幹)
 矢萩 学(北海道新聞野生生物基金事務局長)
- ◇主 催 一般社団法人北海道自然保護協会
 公益社団法人北海道新聞野生生物基金
 北海道新聞社
- ◇後 援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会

1994年に当協会の創立30周年を記念して始められた夏休み自然観察コンクールは今年第22回を迎えました。

応募作品の審査会は10月6日(火)、北海道自然保護協会事務所で開かれ、審査の結果、下記のように、金賞1点、銀賞2点、銅賞6点、佳作17点、学校賞2校が選ばれました。コンクール結果は、北海道新聞10月11日付朝刊に入賞・佳作作品、11月14日付「道新こども新聞週刊まなぶん」には金賞・銀賞の作者および作品の紹介、審査講評が掲載されました。

今回は、当コンクール初めての入賞・佳作作品の展示会を11月10日～15日(10時から16時)に札幌市資料館2階ミニギャラリーにおいて開催しました。約400名の市民の皆さんに会場していただきました。

▽金賞

朝比奈京太郎(札幌市立大倉山小学校3年)
「ミミズを調べよう」

▽銀賞

福井春太郎(札幌市立宮の森小学校2年)
「女王アリのせかい」

樋口陽一(札幌市立大倉山小学校3年)
「クワガタ採集 天気と樹液の比較」

▽銅賞

和田明夢(札幌市立川北小学校2年)
「きのこずかん2」

浅田大雅(中富良野町立本幸小学校2年)
「トノサマバツタのひみつ」

西島一樹(利尻町立沓形小学校2年)
「利尻たんけんたい・ひみつの地図」

遠上力生(旭川市立近文第一小学校3年)
「青虫(モンシロチョウ)の成長」

吉田柊輝(札幌市立真駒内桜山小学校3年)
「草花のふしぎ」

今野北斗(札幌市立西岡南小学校5年)
「西岡公園の鳥マップ」

▽佳作

小坂優維(札幌市立藻岩小学校1年)
「アリのかんさつ」

佐々木華愛(札幌市立藻岩小学校1年)
「ザリガニ」

久保田冬真(札幌市立大倉山小学校1年)
「トノサマバツタのかんさつ」

佐々木英登(札幌市立澄川西小学校1年)
「ありのすのかんさつ」

丹場遙音(小樽市立銭函小学校1年)
「エゾゼミのひみつ」

菅原大輔(札幌市立真駒内桜山小学校2年)
「いっぱいとりぞ虫のたんけんたい」

村上佳駿（札幌市立真駒内桜山小学校 2 年）
「アリのすのけんきゅう」
バント フレドリック（札幌市立真駒内桜山小学校 2 年）
「まこま内公園のきのこ」
山口南弥（札幌市立大倉山小学校 2 年）
「ヤドカリのけんきゅう」
谷岡幸和（札幌市立大倉山小学校 3 年）
「葉っぱ集め」
長谷川 椿（札幌市立大倉山小学校 3 年）
「大倉山 夏の花図鑑 48」
山内莉緒（札幌市立藻岩小学校 4 年）
「藻岩山植物図鑑」
英 このみ（札幌市立真駒内桜山小学校 4 年）

「ともろこしについて」
菅原健太郎（札幌市立真駒内桜山小学校 4 年）
「釣りにチャレンジ」
野呂祐陽（札幌市立大倉山小学校 5 年）
「エゾリスの研究」
藤原百葉（札幌市立東園小学校 5 年）
「トンボの楽園～札幌近郊のトンボ～トンボを調べて気がついた事」
山岸 航（札幌市立平岡公園小学校 6 年）
「女王アリはどのように巣を作るか」
▽学校賞
札幌市立大倉山小学校
札幌市立真駒内桜山小学校

■ ■ ■ 金賞・銀賞の作品についての講評および銅賞の作品の概要

審査委員長 横山武彦 ■ ■ ■

昨年より応募作品数は少なかったのですが、その中には、「おもしろそう」から出発、わかるよるこびにつながる自然観察記録”が感じられる、印象に残る作品が多くみられました。前年に続いて応募してくれた作品には、前回の観察から、新しい、または、さらにもっと知りたいという思いに動機づけられ、新たな観察・研究目標を見いだして取組んだといういきさつもいきいきと書かれていました。

今年度、応募した学校数が 18 校（前年 27 校）に減少したことは、学校への働きかけや広報のしかたの工夫が必要と思われる。11 月に入賞作品を札幌市資料館で公開展示しましたが、来場した市民や作品を制作した児童とその家族などのふれあいから直接感想や要望を聞くことができ、今後の開催への後押しとなりました。

入賞作品についての講評および概要は以下のとおりです。

[金賞] 朝比奈京太郎君は、身の回りの生物を 2 年の間調べてきました。地球の生き物のつながりを知って落葉の下にすむ生き物に興味をもち、土をたがやしてくれるミミズを調べようと思いました。家のまわりの土の表面に見られるツブツブの土はミミズのフン、その下にミミズのトンネルを発見、ミミズの種類によりフンもツブツブやニョロニョロと形に違いがあることも分かった。ミミズをスケッチ、幅の広い環帯や体節、排泄孔も図に示しました。虫かごに土とミミズを入れ黒いビ

ニールをかけるとかごの表面に近い所まできて、その通り道が見えたこと。雨の日の翌日、表面に近い所にいたミミズを引っ張ると戻ろうとしたことから目が無いのにふしぎな力があると思ったことなど、興味から湧いたミミズのふしぎを一つ一つ分かって工夫し試みました。今後、卵を生ませるなどして観察を続けたいとのこと、新たな発見が待ち遠しいですね。

[銀賞] 福井春太郎君は、本で読んだ女王アリについてのふしぎを確かめました。結婚飛行が 5～6 月の晴れた暑い日に行くこと、卵を産んだらねを落としてはたらきアリになることを実際に観察しました。女王アリが卵を産む時にはおしりから卵を自分の口で引っ張り出すことや卵がふ化する時には殻を喰い破って手助けして子どもアリを出してやること、ふ化するまでは卵をなめてかびないようにすること、生まれたら餌を口移して与えることも確認しましたが、中には卵を産んでも世話を全くせず、危険が迫っても卵をほったらかしにして自分だけが逃げる女王アリもいたことも発見。アリにもいろいろなアリがいることに驚いたとのこと。自分でしっかりと女王アリの行動を観て確認し、記録した根気強さは評価に値します。

樋口陽一君は、今年の夏に厚真町で採集したミヤマクワガタとノコギリクワガタの大きさや特徴の比較、去年と今年の夏に採集したクワガタの数とその時の天気と採集できた木の樹液の出方について比較したものでした。去年は台風の翌日の暑

い日で樹液も多く出ていたが、去年クワガタがたくさん採れた樹液の出ている木の幹には今年は樹液がまったく出ていないか少なかったのでクワガタは採れなかったが、晴で日差しが強くさわやかな天気のためか、枝先にたくさんしがみついていたので幹をゆすってクワガタを落して採ったとのことでした。虫の採れる数が、そのときの天気や樹液の産む木によりどのように違うか関係を調べるといふ考えがよかった。

[銅賞] 和田明夢君は、前年につづいてキノコの図鑑を作成。今年度は生育地の環境や形の特徴等も記載した。

浅田大雅君は、「トノサマバツタのひみつ」として、スケッチと文で絵日記風に飼育し。フンの観察や単眼・複眼の確認と単眼の光感受性を確認し

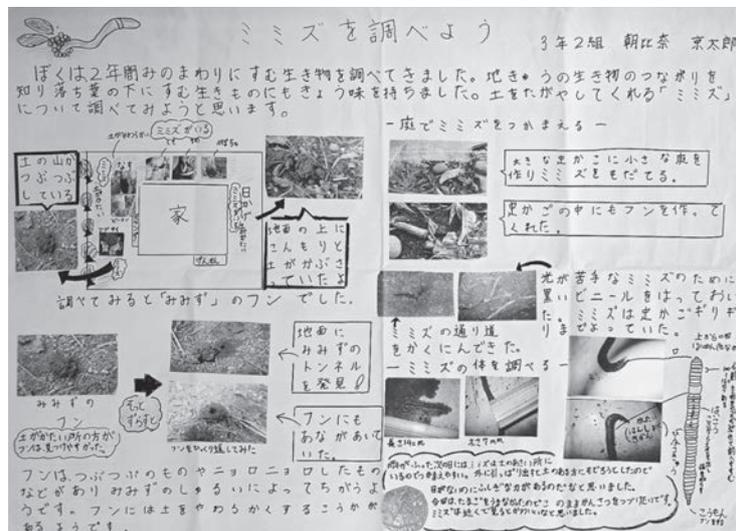
記録した。

西島一樹君は、利尻島の名所、甘露水泉への観察路について、知ってほしい、気付いてほしいひみつを絵巻物風に記録したもの。昨年作品よりも観察の視点や説明に進化と工夫がみられた。

遠上力生君は、ブロッコリーに産みつけられていたモンシロチョウの卵を飼育箱に入れて観察。卵のふ化から、幼虫の成長、蛹から羽化までの経過を観察し記録した。

吉田柊輝君は、草花のふしぎを海岸と家のまわりに生える植物の種類や形の違いに気づいたことから感じ、その理由を調べてみました。

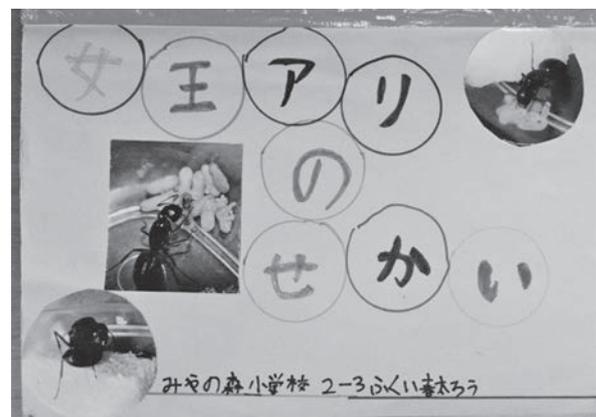
今野北斗君は、西岡公園で長期に野鳥を観察し、撮影した写真を公園の手書き地図に「鳥マップ」として作成した。



金賞 朝比奈京太郎君 「ミミズを調べよう」



銀賞 樋口陽一君 「クワガタ採集 天気と樹液の比較」



銀賞 福井春太郎君 「女王アリのせかい」